

いきいきサロン

皆さんからの投稿でつくる、皆さんのページです

投稿募集中

お便り

兵庫からの義援金
孫娘が高倉小に贈る
仙台市泉区 星宮守(88)

昨年ですが、被災地のボランティア活動に取り組んでいる孫娘が、以前活動をした兵庫県丹波市島町前山地区から寄せられた義援金2万5千円を、大崎市古川の高倉小学校に寄付しました。

孫娘は一昨年8月の豪雨で大きな被害を受けた前山地区で、ボランティア活動に参加。土砂撤去作業や現地拠点の運営など、地域住民と寝食を共にし、交流も深めたようです。

義援金は昨年9月の「関東・東北豪雨」の被災地、古川に住む孫のことを心配した前山地区の住民らが、地区の主な施設に募金箱を設置したところ次々と善意が寄せられ、10月上旬に施設のスツップが宮城を訪れ、孫娘に義援金を手渡したとのことでした。



加美町 板垣篤子(66)



富谷町 加川師亨(80)

豪雨被災地区にある高倉小の児童たちが、地元の家々を回って住民に応援メッセージを贈るといった行為に感銘した孫娘が、大崎市社会福祉協議会に相談し、義援金を高倉小に贈ることになりました。授与式では子どもたちにも、広島土砂災害の映像を見せられ、ボランティア活動や防災の必要性を訴えられたそうです。

熊本地震でも、遠く離れた地域からの励ましや助け合いといった交流の輪が広がることで、一日も早く日常の生活ができることを祈ります。

東日本大震災直後のこと。ライフラインもようやく平常に戻った時、疲労が限界に来ていました。片付けを一段落させ、地域のクリニックに行つて先生の前に腰掛けた時、「どうしました」と聞かれた瞬間、頭の中がおわんの大ききくらいに真っ白で、言葉が出てきません。

震災後遺症を脱し
大切に過ごす日々
仙台市泉区 山辺つよし(88)

「頭が真っ白になる」という表現をしますが、まさにそれを体験しました。

ようやく自宅に戻りましたが、炊事することも食事もすることも忘れてしまいました。徐々に白い部分がなくなってきましたが、体がついて来られない状態になってしまいました。元氣印を売りしていた88歳の時です。

忘れてしまった漢字などを取り戻したく、毎日一生懸命に字の練習をしました。「頭と体を休めることが必要だ」と再三、

第24回 宮城シニア美術展作品募集

- 募集対象/日本画・洋画・書・写真・工芸の5部門
- テーマ/自由
- 応募資格/県内在住の60歳以上のアマチュアの方
- 出展申込料/1作品500円(出展は各部門1人1点)
- 申込期間/7月1日(金)~10月31日(月)
- 展示会場/宮城県美術館 県民ギャラリー
- 展示期間/12月1日(木)~4日(日) ※入場無料
- 審査/各部門専任審査員が審査します(表彰式あり)
- 優秀作品/2017年開催の「ねんりんピック秋田2017」の美術展部門へ出展させていただきます

申し込み・問い合わせ

宮城県社会福祉協議会いきがい健康課

TEL022-223-1171

http://www.miyagi-sfk.net/

息子に注意されました。震災後遺症からようやく抜け出した感じがする2年前、息子が定年退職で帰ってきました。毎日、栄養バランスを考え、彩り豊かな食事を作っていました。私は自分の体力に合わせ、血を洗ったり青物をゆでたりします。

台のよさこい祭りに出るの」と照れながらも意気込みは十分といった感じでした。

娘で着物を着ることができたらいいなと思つています。

義母の百歳祝い つるし飾り

大和町 山口恵美子(64)

着物の着付けも習つていて、4月には私は息子の入学式に義母が着付けてくれた着物で出席しました。義母も自慢の着物に袖を通し、入学式と同じ日にあつた娘の入園式に出席してくれました。母娘で着物を着て子どもは2月21日に持つてきてくれましたので、ひな祭りまで飾っておきました。

また記念の日には、母

義母と着物姿で 共に晴れの日

大河原町 阿部加奈子(88)

義母がレクダンスを始めたとき聞いたのは昨年のことでした。「新しい仲間とさまざまダンスをしている」と話す義母は、毎回弾けんばかりの笑顔。「今年の10月には仙

